

# KANDAI PSYCHOLOGICAL REVIEW

Vol. 2 March 2008

## Contents

### Original articles

*Masashi Kushizaki, Tomoko Nagai and Takashi Sakai*  
Reconsideration of Case Studies through the Analysis of Attachment Style ..... ( 1 )

*Toshiya Tanaka, Chihiro Akita, Yasutaka Nakamura, Chikako Maeda, Kohji Takayoshi and Azusa Fujiwara*  
Quest for Meaning Making Lessons. .... ( 7 )

*Takashi Sakai*  
A study of Anger in Dreams ..... ( 17 )

*Tomoka Yasuda*  
Persistence of Neurotypical ..... ( 25 )

*Naoto Mochizuki*  
The Role of Clinical Psychologist in a Special Preschool:  
The Actuality of the Support for Children with Developmental Disorders. .... ( 29 )

*Chikako Maeda*  
Analysis of various psychological evaluation methods related to the  
physical therapist's training ..... ( 35 )

*Takayuki Nakamura and Masashi Kushizaki*  
The Relationship between Change of Past Memory and  
Psychological Adaptation ..... ( 45 )

*Eriko Nakata*  
The Effect of Linguistic Labels and Pictorial Stimuli in  
Source Monitoring Tasks. .... ( 53 )

### Reports

Summaries of Master Theses, 2006 ..... ( 63 )  
Titles of Graduation Theses, 2007 ..... ( 71 )

### Information

THE SOCIETY FOR PSYCHOLOGICAL STUDIES  
DEPARTMENT OF HUMANITIES  
KANSAI UNIVERSITY

Osaka Japan

# 文学部心理学論集

第2号 2008年3月

## 原著論文

アタッチメントから見た事例の理解 ..... ( 1 )  
串崎真志・永井知子  
酒井隆

「分かる」授業の探求 ..... ( 7 )  
田中俊也・秋田知洋  
中村康隆・前田智香子  
高吉幸治・藤原梓

夢の中での怒りに関する一考察 ..... ( 17 )  
酒井隆

一般健常者のこだわり行動に関する調査研究 ..... ( 25 )  
安田朋香

療育園における心理職～発達障害児への援助の実際～ ..... ( 29 )  
望月直人

理学療法士養成に関する諸尺度の分析 ..... ( 35 )  
前田智香子

思い出の捉え方と心理的適応の関連 ..... ( 45 )  
中村隆行・串崎真志

ソースモニタリング課題における言語ラベルと絵刺激の効果 ..... ( 53 )  
中田英利子

## 資料

平成18年度修士論文要旨 ..... ( 63 )  
平成19年度心理学専修第38回卒業論文題目 ..... ( 71 )

## 彙報

文学部心理学論集

第二号

二〇〇八年

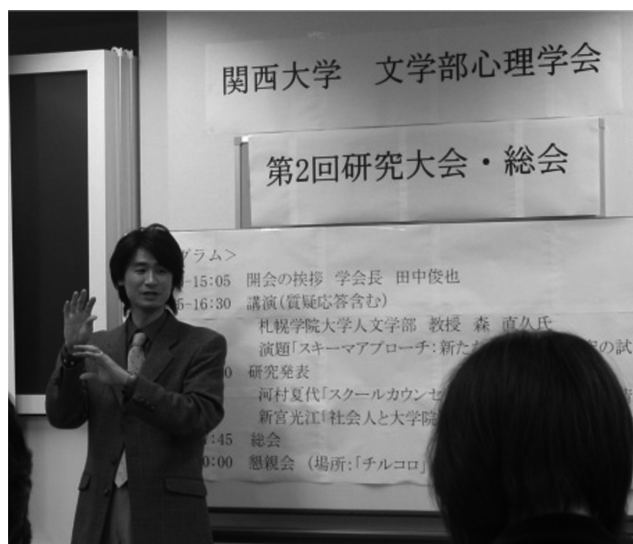
関西大学文学部心理学会

関西大学 文学部 心理学会

## 文学部心理学会第2回研究大会・総会 報告

平成20年1月12日（土）、関西大学尚文館502教室において文学部心理学会第2回研究大会が開催されました。本年の研究大会では、札幌学院大学より森直久氏をお招きして、氏が関わってこられた自白や目撃証言の信用性評価という実践の中から生み出された、「スキーマアプローチ」という想起への新しい接近法に関する講演の他、文学研究科大学院生による2件の研究発表がありました。

文学部心理学専修学生、文学研究科大学院生、卒業生、他学部学生、他大学等より、46名の参加をいただき盛会のうち終了することができました。また、総会では、平成18年度会計報告が承認されました。来年度の研究大会も同様の形式で進めたいと企画していますので、会員の皆様のご参加をお待ちしています。



森先生 講演風景

### プログラム

開会の挨拶 学会長 田中俊也

講演

札幌学院大学人文学部 教授 森 直久氏

演題「スキーマアプローチ：新たな想起・記憶研究の試み」

研究発表

河村夏代 「スクールカウンセリングにおける否定的感情の活用」

新宮光江他 「社会人と大学院生によるメンタルヘルス・プログラム」

総会

懇親会

関西大学文学部心理学会 2006年度会計報告

2006年4月1日～2007年3月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度よりの繰越金	323,024	学会・懇親会費	56,000
学会費会費 ※1	354,000	通信費	24,525
懇親会会費	0	セミナー印刷費	500,200
セミナー抜き刷り代 (執筆者負担分)	5,250	事務消耗品費	6,926
口座開設費	1,000	人件費	4,500
預金利息	166	次年度繰越金 ※2	91,289
	683,440		683,440

(単位：円)

<内訳>

※1

<新2年次生>

21名×12,000円 = 252,000円

<学外会員>

20名×3,000円 = 60,000円

<専任スタッフ>

6名×6,000円 = 36,000円 → 2005年度分未納につき合算徴収

2名×3,000円 = 6,000円

354,000円

※2

りそな銀行 現金

(83,966円 + 7,323円)

=91,289円

会計監査 金敷大之 (畿央大学健康科学部講師・関西大学非常勤講師)

スタッフの活動  
(2007年4月～2008年3月)

池見 陽

【教育研究活動】

<学術論文>

Ikemi, A., Yano, K., Miyake, M., Matsuoka, S.  
(2007) Experiential Collage Work: Exploring  
Meaning in Collage from a Focusing-  
Oriented Perspective. *Journal of Japanese  
Clinical Psychology* 25(4): 464-475

<学会ワークショップ>

「フォーカシングの実践は人間性心理学に何を  
示しているのか」日本人間性心理学会第26回  
大会 (仁愛大学)

<その他>

“Interaction First: Sandra Kimball seeks the  
counsel of psychologist Akira Ikemi”  
*Kansai Time Out*, December 2007. (インタ  
ビュー記事)

【学内外活動】

日本自律訓練学会会長

日本人間性心理学会常任理事

兵庫県臨床心理士会理事

日本心理臨床学会広報委員

日本産業精神保健学会評議員

日本心理学会会員

日本心身医学会会員

日本産業カウンセリング学会会員

The Focusing Institute, Certifying Coordinator

Association for Humanistic Psychology 会員

World Association for Person-Centered  
Experiential Psychotherapy and Counseling  
会員

The Focusing Institute, Focusing Summer  
School 講師

梅田、東大阪などでフォーカシングワークショ  
ップ開催

ゼミ旅行開催 (飛鳥)

加戸 陽子

【教育研究活動】

<論文>

注意欠陥／多動性障害および広汎性発達障害に  
おけるストループ効果の検討 (共著)

岡山大学教育実践総合センター紀要 (2007) 7,  
157-164.

発達障害評価のための神経心理学的検査

関西大学文学論集 (2007) 57, 93-106.

Japanese version of the Frontal Assessment  
Battery for dementia (共著)

*Psychiatry Research* (2007) 153, 69-75.

軽度発達障害の神経心理学的評価 (共著)

関西大学人権問題研究室紀要 (2007) 54, 37-58.

各種神経心理学的検査の併用が視覚認知困難の  
評価に有用であった一事例 (共著)

関西大学人権問題研究室紀要 (2007) 55, 印刷  
中

<その他>

第49回日本小児神経学会総会『広汎性発達障害  
へのKeio版Wisconsin card sorting testの臨  
床応用』大阪国際会議場 7月6日

川西市生涯学習短期大学講座『発達障害をと  
もなう子どもの理解と支援』川西市生涯学習セ  
ンター 10月27日

関西大学サタデー・カレッジ『特別支援教育か  
ら学ぶ子育てスキルについて』

関西大学エクステンション・リードセンター  
12月1日

【学内外の活動等】

<学内>

人権問題研究室研究員

<学外>

・岡山大学病院小児神経科 心理検査士

・大野小児科医院 心理検査士

<所属学会>

日本小児科学会

日本特殊教育学会

日本発達障害学会

日本小児神経学会

## 申崎真志

### 【教育研究活動】

<著書>

1. 「カウンセリングとソーシャルサポート」  
(水野治久・谷口弘一・福岡欣治・古宮昇編、  
分担執筆)、2007年10月、ナカニシヤ出版  
全194頁

<論文>

1. 「2000年以降の自閉症論」『人権問題研究室  
紀要』、第53号、pp.1-12.
2. 「Garry Landrethの親子関係療法 (Child  
Parent Relationship Therapy)」『平成18年度  
文部科学省学術フロンティア研究成果報告  
書』(関西大学大学院社会学研究科)、  
pp.53-62.
3. 「大学生における意地の構造：尺度構成の  
試み」(永井知子と共著)『平成18年度文部科  
学省学術フロンティア研究成果報告書』(関  
西大学大学院社会学研究科)、pp.141-148.
4. 「大学生における意地表現の特徴：意地表  
現尺度の作成」(永井知子と共著)『千里山文  
学論集』(関西大学大学院文学研究科院生協  
議会)、77、pp.115-127.
5. 「意地のイメージ：高校生と大学生の比較」  
(永井知子と共著)『関西大学文学部心理学論  
集』(関西大学文学部心理学専修)、第1号、  
pp.19-26.
6. 「相互ウォッチワード・テクニック (mutual  
watchword technique) の試み」『関西大学  
文学部心理学論集』(関西大学文学部心理学

専修)、第1号、pp.11-18.

7. 「因果性を探る：共分散構造分析の実際」  
(田中俊也・秋田知洋・石本純子・角谷亮  
介・吉良陽子・新宮光江・中村隆行・中村康  
高・前田智香子・安田朋香と共著)『関西大  
学文学部心理学論集』(関西大学文学部心理  
学専修)、第1号、pp.27-43.

<その他>

1. 「海外文献紹介『実験実存心理学ハンドブ  
ック』」(中村隆行と共著)『関西大学文学部  
心理学論集』(関西大学文学部心理学専修)、  
第1号、pp.73-80.
2. 「海外文献紹介『障害と心理学：批判的導  
入と反省』」(角谷亮介と共著)『関西大学文  
学部心理学論集』(関西大学文学部心理学専  
修)、第1号、pp.80-81.

<ゼミ活動>

3年次の「心理学演習」(14名)、4年次の  
「卒業演習」(14名)を担当。

### 【学内外の活動】

<学内>

心理学専修代表、人権問題研究室研究員、視聴  
覚教室運営委員

<学外>

1. 福井県総合福祉相談所・講師 (スーパーバ  
イザー)
2. 京都家庭裁判所家事調停委員カウンセリング  
講座・講師
3. 大阪府こころの健康総合センターリハビリ  
テーション課・講師
4. 摂津市家庭児童相談室・家庭相談員

## 田中俊也

### 【教育研究活動】

<著書・辞典>

田中俊也 「ヒューマン・エラー(1) 自分の失  
敗傾向を知ろう」大野木裕明・宮沢秀次・二  
宮克美編『調査実験 自分でできる心理学』

(ナカニシヤ出版、2007) 第2部 Pp.56-59.  
田中俊也 「スタディ・スキルを生かす ①ゼミの中で」中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007) Pp.39-40.

#### <論文・報告書>

品川哲彦・田中俊也・中澤 務・本村康哲・森 貴史・森部 豊・渡邊智山 2007年3月「初年次導入教育テキスト『知のナビゲーター』作成の試み ―文学部のスタディ・スキルズ養成授業にもとづいて―」関西大学文学論集、第56巻第4号 109-137.

田中俊也・串崎真志・秋田知洋・石本純子・角谷亮介・吉良陽子・新宮光江・中村隆行・中村康高・前田智香子・安田朋香 2007年3月「因果性を探る―共分散構造分析の実際―」文学部心理学論集、第1号 27-43.

田中俊也 2007年3月「初年次教育センターとUniversity101―サウスカロライナ大学から学ぶ―」平成18年度関西大学重点領域研究(B-7大学における教育と研究)「初年次導入教育に関する総合的研究―学びのスキル獲得と情報リテラシーの同時獲得・形成を目指して―」、1-28.

田中俊也・中澤 務・本村康哲・森 貴史・渡邊智山 2007年3月「初年次導入教育に関する総合的研究―学びのスキル獲得と情報リテラシーの同時獲得・形成を目指して―」平成18年度関西大学重点領域研究(B-7)「大学における教育と研究」研究代表者 1-100.

田中俊也 2007年3月「授業出席と成績との関連」平成18年度関西大学現代GP成果報告書：進化するe-Learningの展開―授業と学習の統合的支援および教授法と学習コンテンツの共有化 関西大学現代GP推進担当者会議 100-111.

田中俊也 2007年3月「教育方法・技術論 初回授業の実践事例報告」平成18年度関西大学

現代GP成果報告書：進化するe-Learningの展開―授業と学習の統合的支援および教授法と学習コンテンツの共有化― 「教えと学びのショーケース」(Web版 [http://www.sc.kansai-u.ac.jp/STL/Tea\\_sc31.php?ji=4](http://www.sc.kansai-u.ac.jp/STL/Tea_sc31.php?ji=4))

#### <学会>

高吉幸治・田中俊也 2007年9月「ロボットの振る舞いと知性・性格の印象の関係」情報処理学会研究報告2007-CVIM-160 43-48.

秋田知洋・田中俊也 2007年9月「連続した絵画のストーリー構成と情報探索の関係―眼球運動を指標として―」日本教育心理学会第49回総会論文集 692.

#### <ゼミ活動他>

ゼミは例年通り、2回のゼミ合宿を通して学びの共同体の実践に心がけた。今年は卒業でゼミでの学びを正統的周辺参加論からのアプローチで質的・量的に研究する者も現れ、ゼミ活動を「メタ」のレベルで改めて考えるいい機会ともなった。当該の学生は院に進学で継続的に縦断的研究を計画している。六甲山荘は増築でゼミ教室もでき、大変快適な空間に変貌をとげている。

#### <講演・その他>

「おもしろ心理学ゼミナール」(関大1セミナー)の講演依頼が相次ぎ、京都府立網野高校(6月6日)、私立開智高校(7月21日)、寝屋川高校(7月27日)、農芸高校(12月18日)、高槻北高校(08年1月24日)の5校で、高校生相手の心理学の入門ガイダンスを行った。教科に「心理学」を持たない生徒のみんなの驚きや笑いに手ごたえを感じた。

#### 【学内外の活動】

##### <学内>

文学部総合計画会議委員(副委員長)。心理学研究科設置委員会小委員会委員長。関西大学教えと学び連環室主幹。

##### <学外>

伊丹市選抜制度検討委員会委員長、神戸市教育委員会「分かる」授業推進事業プロジェクトメンバー、外部評価委員会委員長（三原市立鷺浦中学校）、日本学校カウンセリング学会『学校カウンセリング研究』編集委員、日本赤ちゃん学会評議員、認定心理士会評議員。学校心理士。認定心理士。

## 中田行重

### 【教育研究活動】

<論文>

1. 吹田市教育委員会との連携による教育臨床ボランティアシステムの展開 平成18年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書（関西大学大学院社会学研究科）、41-52
2. 地域臨床の背景にある問題意識と訓練について 関西大学心理相談室紀要9号、15-24

### 【学内外の活動】

1. 心理臨床カウンセリングルーム室長
2. 文部科学省学術フロンティア研究分担者
3. 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B）一般）研究代表者
4. 日本人間性心理学会常任理事
5. Person-Centered and Experiential Psychotherapies (The Journal of the World Association for Person-Centered and Experiential Psychotherapy and Counseling) Associate Editor

## 野村幸正

学生の声に耳を傾けながら、また自分の生の声で学生に話しかけながら、「心理学」を媒体にして、教え—学ぶ関係の奥にあるものを模索している。

## 比留間太白

### 【教育研究活動】

<著書>

2007.11 説明の心理学 ナカニシヤ出版（山本博樹との共編著）

<論文>

2007. 3 協働を通じた学習 2—中高学年用協働思考プログラムの開発と実践—, CHAT Technical Reports No.5, 27~49. (伊藤大輔との共著)

2007. 3 The problem of discoursing in activity. Actio: An International Journal of Human Activity Theory, No.1, 93-114. (Gordon Wells, Tamara Ball との共著)

2007. 7 多文化共生時代の学校カリキュラムと協働的アプローチにもとづく教師の専門職性の開発 CHAT Technical Reports No.6, 1~23. (山住勝広との共著)

### 【学内外の活動】

<学内>

関西大学人間活動理論研究センター研究員

<社会的活動>

「テクニカル・ライターの会」企画・運営委員

## 松村暢隆

### 【教育研究活動】

<論文>

「才能のある学習困難児のための教育プログラム：2E教育の基礎固めのために」関西大学文学論集 (57-3). 2007年12月.

<学会発表>

「才能児と才能教育の特徴のイメージに関する調査」. 日本特殊教育学会第45回大会. 2007年9月.

<科研費研究成果報告書>

「理科授業で学習困難や才能を示す児童生徒への特別支援の方策に関する研究」. 2008年3月. (愛媛大学・隅田学と共同. 松山市の小

学校で).

<一般向け雑誌記事>

「早期教育Q & A」日経Kids+ (3月号). 日経  
ホーム出版社. 2008年1月.

**【学内外の活動】**

アメリカ教育学会理事

講演: 「知能と才能の発達と学習」. 川西市生涯  
学習短期大学 (レフネック). 2007年6月



## 執筆者紹介（執筆順）

申崎 真志	関西大学文学部心理学専修准教授
永井 知子	関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程
酒井 隆	関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程
田中 俊也	関西大学文学部心理学専修教授
秋田 知洋	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
中村 康高	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
前田智香子	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
高吉 幸治	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
藤原 梓	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
安田 朋香	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
望月 直人	関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程
前田智香子	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
中村 隆行	関西大学大学院文学研究科心理学専修博士課程前期課程
中田英利子	大谷大学任期制助教（関西大学非常勤講師）

---

(非売品)

文学部心理学論集 第2号

2008年3月16日 印刷

2008年3月31日 発行

編集兼発行者 関西大学文学部心理学会

会長 田中俊也

印刷 株式会社 廣濟堂

---

## 文学部心理学論集 編集・投稿規程

1. 本誌は関西大学文学部心理学会の機関誌であって、年1回発行される。
2. 本誌は編集委員会の責任のもとに編集される。
3. 編集委員会は、関西大学文学部総合人文学科心理学専修の専任教員から構成される。
4. 本誌には、原著、書評、彙報の欄を設ける。編集委員会の判断でその他の欄を設けることもできる。
5. 本誌に投稿を希望する者は、以下の各項（投稿規程）を遵守すること。
  - ① 投稿は、学会員に限る。なお、特集論文については編集委員会の判断による。
  - ② 掲載の順序、分類は編集委員会が決定する。
  - ③ 論文は未発表のものに限る（学会での口頭発表、ポスター発表、研究会等での発表を除く）。
  - ④ 論文の長さは原則として本誌仕上がり10ページ以内（15,960字。タイトル、文献、図表等すべて含む）とする。編集委員会が特に認めたものについてはこの限りではない。
  - ⑤ 原著論文の構成および表記は、日本心理学会等の学会誌で規定された「投稿の手引き」に準拠したものに限る。
  - ⑥ 当該年度に掲載を希望する投稿原稿は電子的に記録したものに、出力された原稿2部を添えて、当該年度の11月10日までに編集委員会に提出する。
  - ⑦ 投稿論文は編集委員会によって審査され、掲載の可否が決定され、本人に通知される。編集委員会から修正等を要求することもあり得る。
  - ⑧ 論文印刷に関して特に費用を要する分は執筆者の負担とする。
  - ⑨ 執筆者には論文抜き刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
6. 本誌に掲載された論文の原稿は原則として返却しない。
7. 本誌に掲載された論文を無断で複製及び転載することを禁ずる。
8. 編集委員会の事務局を心理学専修合同研究室におく。

以上

2006年9月1日制定

2008年2月22日改訂